

自己評価報告書

平成 23年 5月 27日現在

機関番号：25403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2012

課題番号：20720075

研究課題名(和文) 二十世紀アイルランドにおける英語文学とアイルランド語文学の相関関係

研究課題名(英文) The Interrelation between Irish-language Literature and English-language literature in the 20th century Ireland

研究代表者 池田 寛子 (IKEDA HIROKO)

広島市立大学・国際学部・准教授

研究者番号：90336917

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：アイルランド文学、アイルランド語

1. 研究計画の概要

研究の基盤となるのは、英語とアイルランド語の作品を念入りに読み込む作業である。また、作品が生まれた社会的状況について、言語・文化的な政策に関わる文献を使って綿密に検証する。

(1) アイルランドでの資料収集は次の図書館などで行う： Manuscript department (National Library of Ireland), UCD Library, Department of Folklore Archive (University College Dublin), Royal Irish Academy, Music Archive (Dublin). 精読が必要な古い資料は可能な範囲での購入も検討する。

(2) アイルランド語使用地区(ケリー州、ディングル半島)に滞在し、アイルランド語を基盤とする伝承や信仰について聞き取り調査を行い、アイルランド独特の言語表現とその歴史的背景を探る。

2. 研究の進捗状況

アイルランドでの資料収集を計画通り図書館やアーカイブで行った。アイルランド語詩とその英訳や翻訳と翻訳理論についての論文や著作を集め、精読を進めた。入手した論文、文献を以下の学会発表や論文作成に活用

した。

(1) 日本イェイツ協会のワークショップ「星から来た一角獣をめぐる」のパネラーの一人として、イェイツの戯曲『何もないところ』と『星から来た一角獣』を検討した。

(2) 現代アイルランド女性詩人ヌーラ・ニゴーノルのアイルランド語の詩篇について、北アイルランドの詩人ポール・マルドゥーンの英訳と比較検討し、その成果をまとめ、国際アイルランド文学協会日本支部(IASIL)の年次大会で英語の口頭発表を行った。

(3) 解説と註を付けた訳詩集の出版：現代アイルランド女性詩人ヌーラ・ニゴーノルの人魚をめぐる37の詩篇をアイルランド語から日本語に翻訳する作業を終えた。詩人論として「詩人ニゴーノルとその言語観」、16世紀以降の英文学で描かれてきた人魚とニゴーノルの人魚との比較に基づく試論「ニゴーノルの人魚 — 知られざる人魚たちの素顔」、連綿と続く境界感覚の揺れに着目してヨーロッパにおける人魚の歴史をたどった概論「人魚物語再考 — 人との境界のゆくえ」を執筆し、訳詩集『ヌーラ・ニゴーノル詩集 — アイルランドの人魚歌』の巻末に添えた

(4) アイルランド語詩人ヌーラ・ニゴーノルの人魚をめぐる37篇のアイルランド語詩と英語詩人ポール・マルドゥーンによるその英訳を比較検討し、論文 “Toward our own Murúch: Reading Nuala Ní Dhomhnaill’s *The Fifty Minute Mermaid*” にまとめた。

3. 現在までの達成度

②おおもね順調に進展している。

成果の公表：詩人ヌーラ・ニゴーノルとの対談で翻訳上の問題を解決し、訳詩集を出版できたことが現時点での最大の成果である。この翻訳作業が論文執筆にも繋がった。

文献・資料の収集と精読・分析の進行状況：必要なアイルランド語詩とその英訳をほぼそろえることができ、現在、精読と読解を継続し、アイルランド語文学と英語文学の相関関係を検討している。古期や中期のアイルランド語で書かれた恋愛詩には、20世紀以降に英訳されたものが多数ある。英訳については、原詩の直訳と詩的な翻訳の違いに着目している。少数言語と翻訳の関係、翻訳と文化の多様性の問題、アイルランドの作家たちにとっての翻訳を論じた文献を集め、精読を続けている。これらの成果を研究期間の最終年に公表する予定である。

4. 今後の研究の推進方策

研究の順調な進展をさらに推進するため、次の3点について以下のようなことに留意する。

(1) アイルランド語詩の読解：古期の作品の文法的に難解な点を整理して専門家の助言を仰ぐ。

(2) 収集した文献や資料の整理と分析：集めた作品と資料の通読を迅速に進め、精読する作品を取捨選択する。

(3) 研究成果の公表：成果の発表の場を積極的に利用することによって研究に弾みをつける。具体的には次の三つを実行する。

①来年度(平成24年6月)中国四国イギリス・ロマン派学会のシンポジウムのコーディネーターを務める。アイルランド語文学と英語文学の相関関係を基軸に、そこから派生してくるテーマをめぐって講師を募り、自らもアイルランド文学におけるアイルランド語の位置づけや翻訳の問題について発表する。

②日本イェイツ協会での研究発表の準備。

③英語の博士論文をもとに日本語で著書の準備を進めてきた。今回の研究成果から得られたことも反映させたかたちで、2011年度中の出版をめざす。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① IKEDA, Hiroko. “Toward our own Murúch: reading Nuala Ní Dhomhnaill’s *The Fifty Minute Mermaid*”. *Journal of Irish Studies* XXV (2010) pp. 36-47. 査読あり。

[学会発表] (計2件)

① IKEDA, Hiroko. “Truth in Every Single Tale: Reading into Nuala Ní Dhomhnaill’s *The Fifty Minute Mermaid*”. IASIL Japan Conference at Gakusyuin University (於: 学習院大学、東京) 2008年10月11日。

② 池田 寛子「秩序転覆の Vision – 戦う一角獣のいる天国」日本イェイツ協会第44回大会(於: 青山学院大学、東京) 2008年9月7日。

[図書] (計1件)

① 池田 寛子 新・世界現代詩文庫11『ヌーラ・ニゴーノル詩集』土曜美術社出版販売。2010年3月。161頁。

[その他]

①翻訳 池田 寛子「アイルランド起源の『島の』装飾写本」(リチャード・ケリー)『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』風呂本武敏編著、世界思想社(京都)2009年4月 pp. 29-39。

②『アイルランド語文法』梨本邦直(責任編集) 訳者 荒木孝子, 池田寛子, 他7名 共訳。研究社(東京) 2008年1月 416頁。